

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

*Daichikyo News*

# 大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第10号

## NPO法人 大阪市地域福祉施設協議会 現状と課題そしてビジョン

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《 広報宣伝部 》

発行日：2021年3月 第10号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。



大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど

上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

2021年2月に、第25回日本地域福祉施設協議会の全国研修会をオンライン形式で実施することができました。初めての試みで試行錯誤しながらの研修会となりました。東地協の皆さん、東海地協の皆さんのご協力に感謝いたします。そして全国各地の仲間の皆さん、ご参加頂きありがとうございました。特段、阿部先生や岸川先生にはご無理をお願いしました。改めてお礼を申し上げます。大地協としては、やっただけるんやを実感した研修会ともなりました。わが大地協の今回の実行委員会や各施設のスタッフのパワーも再認識でき、これだけできるんやったら、何で普段からもっとせんのやろと疑問も沸いたところです。そこで初心に帰ってみて、現状分析に着手しました。分析のうえ課題を抽出し、短期ビジョン・長期ビジョンを掲げることとしました。まず現状の分析で1番の問題は、会員の半数しか大地協活動に参画されていないこと。残念ながらこれが現状であります。そして全会員に、どうすればポジティブに参画して頂けるかを検討することが課題となります。3年後に80%の会員に、5年後には全会員に、大地協の一翼を担って頂くことをビジョン・目標に定めたいと考えます。さらに現状を細かく分析すると、新規会員の拡充がない・自然体験施設の効率的な運営ができていない・ICT活用が不十分である・会員施設の職員にまでは、情報が届いていない・会員特典が少ない・組織のPRが下手なため、認知度が低い・内外への発信力が弱い等々。このように取り組むべきことが山積していますが、裏を返せば、課題が多いからこそ、やる気にもつながると確信しています。大地協は小さな団体ですが、歴史があります。若い力もベテランの経験力も包含していますし、何よりもセツルメント魂があると自負しています。会員皆さんを巻き込んで、夢をでっかく持ち続けたいと思っています。

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

会長 倉光 慎二

# 地域の“燃えよセツラー”はみんなのもう一歩から始まる！

～ 一期一会 先人たちの言葉に心打たれて～

『先輩たちは、私たちの前では、余分な遠回りはしなくてもよい…』(風の子 M 先生)

日々の仕事に悩んでいた私に、何気無い先輩の言葉が今も心の支えになりました。

私が大地協と出会ったのは、新卒で港隣保館に就職した年です。地域福祉の右も左も解らぬ新米者に、施設長伊藤徳太郎は、勉強する機会を与えてくれました。古い建屋だった上六の社会福祉会館で月に2回大阪コミュニティセンター研究協議会学童保育研究会に参加させて頂きました。後々、分かって来たのですが、大阪の地域福祉を切り開いてくださった、すごい施設の施設長さんや、やる気が無いと参加しにくい研究会？の先輩達に恵まれました。福祉施設の職員として働く私には、大地協の繋がりが心の血肉になっていると思います。

当時、施設では指導員が一人だけで、孤独な仕事を研究会の先輩が支えてくれました。愛染橋児童館の小掠先生には、ケン玉やコマの回し方、竹馬の作り方などのあそびの極意や子どもの生活を守るために大切な心や姿勢を学んだ。風の子児童館へは、何度通ったかわかりません。松井先生、小谷先生には、自然力、地域や保護者との組織や施設づくりを。特に松井先生には、港でも中高生や高学年の学童保育を目指していた時、お休みの日に、わざわざ比良山や曾爾高原に同行して下さり自然の厳しさや子どもたちを守る姿勢を教えてくださいました。育徳園の倉光先生からは、連泊でセツル家の合宿に参加させて頂き、子どもたちとの距離の持ち方や創り出す勇気を学んだ。指導員として何の経験も無い私には研究会は、打てば響く実践と学びの場でした。そして忘れてならないのは、施設長の菅先生、松村先生、竹垣先

生たちが、他施設職員の出入

りを暖かく見守ってくださった事です。大地協の活動で学び、考え、動き、実践し、失敗し、支えられ、また立ち上がり、と背中を押して頂いた私は、港区の地で少しでも、地域のみなさんの居場所になりたいと“昼間のきょうだい”“昼間の家族”を目指しています。

施設長も職員も“共に一緒になっての精神”が大地協の強みだと思います。大阪の社会福祉を支え守って来られた先人たちに心より感謝いたします。そして今、福祉の現場で仕事を始めたばかりのみなさんへ、コロナ禍で人との接触が制限され、お手本の無いご苦労があると思います。今こそ施設人として地域の中で“見えないけれど大切なもの”に改めて気づいた私たちです。子どもたちを思う気持ちはみんな一緒です。地域福祉施設職員としておおいに学びおおいに街の中を歩きましょう。先人たちが、先輩方が、みなさんに深い愛情と暖かなまなざしで、あなたの身近な周りからエールを贈っていますよ！

社会福祉法人港民生会

港保育所 所長 山口 千扶美



## 「98歳と98歳の再会」

利用者の方からかをいただいたエピソード

Aさんは98歳。要介護の認定があり水仙の家デイサービスを週に4回利用している。昨年夏の猛暑で体調を崩し食欲も体力も低下。小柄な体はさらに小さくなりいつもの元気がどこかにいってしまったようだ。折しも介護をしているご家族が病気となりAさんへのケアが難しくなったことも影響して、Aさんは入院してしまった。このコロナ禍である。我々職員の不安はさらに募った。

Bさんは98歳。年齢を感じさせないかくしゃくとした身のこなしで自立した生活を送っていたが、昨年夏に室内で転倒。大腿骨を骨折し治療とリハビリで入院の日々が続いた。しばらくして先に退院したAさんは、少し回復したものの口数も少なくいつもの活気がない。一方、Bさんはやっとの思いで在宅生活復帰を果たしたが、骨折の後遺症で身の回りのことに支援が必要となったため、当デイサービスを利用することになった。AさんはBさんを見るなり、とても懐かしそうに「おお、元気やったか？」と声をかける。Bさんはそれに応えるかのように「どないしてたんや？」と、お互いの会話が弾む。表情は晴れやかだ。実はAさんとBさんはご近所同士で地域の役員をしたり一緒に旅行を楽しんだりした仲とのこと。それ以降、Aさんには生気がよみがえり、食欲も戻って身体の動きが良くなってきた。その後褥瘡ができたが短期間の入院でカムバック！Bさんは室内歩行器を手放せないものの、家事をこなし以前の自分を取り戻しつつある。

スペイン風邪の恐ろしさがまだ冷めやらぬ大正、そして激動の昭和を生き抜いた二人の女性はいろんな苦難に直面しながらも、したたかにそしてしなやかに人生を楽しんでいる。

水仙の家 玉岡 泰正



# 『 仕事を楽しんでいますか？ 』

## 新人の時を振り返って ～福祉への思い～

私は、幼少期、近隣の幼馴染とままごと遊びを楽しんでいた。よく幼稚園の先生役を担い“大きくなったら幼稚園の先生になろう！”と幼心に思っていた。

友人の誘いで社会福祉施設等へのボランティア活動を始めたのが福祉の世界への入り口であった。(ボランティア協会のO先生との出会い、保育資格取得) 私は、知的障がい児施設を訪問した時、対象児の思いを施設の先生方がしっかりと受け止め、丁寧に関わられている姿を目のあたりにし、私も福祉施設職員として実践の道を志したい思いと、幼い頃の夢とが相俟って阿さひ保育園に入職した。当時園長先生の下で3名の保育士(定員45名2歳児から年長児)4・5歳混合クラスの担任として子どもたちとワイワイガヤガヤ、生き生きと活動しながらもこの子どもたちにとってのより良い育ちとは、小学校就学に向けて今必要なことはと模索しながらも根底では一人一人の子どもも理解できるように記憶している。自閉的傾向の子どもとの出会い、関係性の構築には時間を要したがお互いの心に何か生まれ育ったように思う。入職と同時に大阪府立社会福祉事業研修所(夜間)に通い始め某保育園のA先生との出会いがあり保育園同士の交流が深まった。某保育園の当時の園長先生、A先生はいつも心にかけてくださっていた。お陰で保育の中身とともに福祉の心を学んだように思う。20数年前園舎移転に伴い保護者からの要望で児童保育を始めた時も力強い後ろ盾を感じたことは今も記憶している。ありがとうございました。

私は、対人援助者として、子どもたちに分かりやすい表情で温かいまなざしを示しながらお陰様の心を常備し、明るくのびのびと仕事を今も楽しんでいます。



阿さひ保育園  
園長 西山 幸恵

### 《 ご紹介書籍 》

#### 『どんぞこのこども：釜ヶ崎の徳風学校記』・『働き蜂』

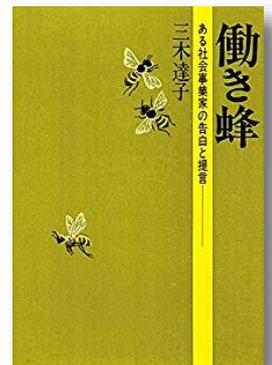
原稿依頼を受けて気軽にOKをだしたものの福祉の勉強をほとんどしていない中でどうしようかと戸惑っていました。

阿部志郎先生の=大地協の皆さんへのメッセージ=「罪の告白ができるか」が机の上になりました。2代目として後継者として保育園の施設長になったのでしょうか？否、です。

そして、先代の死後、散らかっていたデスクの整理をしていると「追憶」という作文がありました。その一行目、「父を反面教師として生きてきた私でした。」図らずも私も父を反面教師として施設長をしてきました。当時、児童数が激変し定員の3分の2、90人台をうろうろしていました。どうしたらいいのか迷っていると昼食に寄った蕎麦屋の親父がうちの孫入れてくれへんか？何、うちの子入れてくれへんかってん。孫は？今までなんやったん、保護者を選んでたん、職業で選んでたん、思想信条で選んでたん？次々と疑問がわいてきました。そういうことが次々と起こり希望される方はすべて受け入れることに改めました。数年もたたないうちに定員をはるかに超える状態になりました。

そして、もう一冊「どんぞこのこども：釜ヶ崎の徳風学校記」が出てきました。これを読めということかと思いました。明治から大正までの大阪市の中での貧民窟での活動をまとめた本でした。その中身を研究している「大阪における社会福祉の歴史」大阪社会福祉研究会編を読んでいると北田辺保育園の創立にご尽力いただいた三木達子先生の「働き蜂」のことが書かれていました。つい最近手に入れて読ませていただきました。私の幼少期には、北田辺の周りにもスラムになりそうなアパートとか高架下に住み着いた人たちが沢山いました。北田辺保育園の利用者も多数、ほとんどがそうでした。生活保護家庭の問題を取り上げ市と交渉してどうのこうのと北田辺の小冊子にはあります。

## 福祉系書籍紹介 ブビリオバトル



### 《 書籍紹介 》

北田辺保育園 園長 戸田 正三

# 『大地協あっぱれ！』

## 第25回 地域福祉施設全国研修会にオンライン参加して

今回の全国研修会は、コロナ禍にあっても、手を緩めない、大地協の信念が表れていた。「コロナ何する者ぞ」との青年精神が爽やかであった。大胆にも基調講演に阿部志郎先生を据えたのは、大地協の時を捉える鋭敏なセンスである。阿部先生もこれを正面から受けて立ち、このコロナ禍そして今後の地域福祉の方向性を明確にご提示なされた。阿部先生にも大地協にも気迫を感じた。私は、天を仰ぎ、身を削って働くことの光栄を今一度かみしめ、出直そうと思った。

西野伸一実行委員長を中心に、実働職員チームの方々は、会を終えて、その達成充実感の中にあると思う。研修企画の会合が、何回もたれたのか、多彩な分科会発題者がどう揃い、どれほどの打ち合わせが行われ、まとまりの苦しみをなされたか、設営、IT技術のハード面はどうしたか、定刻に始まり、予定どおりにこともなく終了させた結束力は、「さすが大地協」であった。

最後の、岸川洋治日地協会長のまとめも、いつものことであるが、はっとさせられる。基調講演から、分科会発題者の内容、パネルの総括まで見事に串刺しにしてまとめられた。今回改めて思ったのは、会長が指摘なされたこの研修会のもつ先駆性である。国際家族、トラウマインフォームドケア、ヤングケアラー、学校内における居場所づくりなど今の課題をよくとらえていた。大地協加盟施設職員の日常業務の中に、沸々とセツルメント思想がわき上がっていることを想像する。そのまとめりである大地協は、継承が進化となって進んでいると思う。

私は、1999年2月に日地協全国研修会大阪大会に出席した。阿部先生の紹介であった。それまで、学会以外に地域福祉を語る会があるとは思っていなかった。後で分かったことだが、セツルメントが語られ続けている施設が複数あり、さらに個人的にも関心をお持ちの方が意外に多い。今思えば、分野別に発達した我が国の福祉が、コミュニティを、地域福祉を求め始めている時、それが大阪大会出席の時であったと。出席者は障害、児童、教育、保健、医療、心理、保育、社協関係者など、多彩であった。漠然とこれまで考えていた会合のあり方が、現実の形となっていた。基調講演、分科会と時間がたつにつれて、この会に同化してゆき、心地よい会合にうれしさを感じた。こんな気分で分科会に出席していた私のところに阿部先生がおいでになった。「この会を東京でもったらよいと思うが、次年度東京開催を提案する。よいか」であった。

分科会が終わり、紹介されたのが、大阪大会の中心人物3氏である。小掠、倉光、小谷先生である。東京に帰り、早速、布施英雄先生（一昨年にご逝去）に報告。雲柱社の服部先生、ベタニヤの長畝先生、賛育会の古田常務、皆さん、快諾であった。2000年9月に東地協発起人会が興望館でもたれ、第1回目の日地協東京大会が墨田区で行われた。東地協のこの20年は、東海地区地域福祉推進協会とともに、大地協を目標にして歩んできた。非常に魅力的な、大阪人ソーシャルワーカー3氏との出会いは、私の人生にも影響した。

《掲載写真 右上より》

◇ 全体会の全景 ◇ 分科会興望館ホール・福田垂穂先生による講演

◇ 阿部先生、小掠先生、服部栄（東地協会長）、菅先生、野原 ◇ 阿部先生と野原



社会福祉法人興望館 野原 健治

